

令和4年度奈良県「県民アンケート調査」 文化活動【智恵の「都」をつくる】の項目の集計結果とポイントについて

奈良県では施策を継続的に検討・実施していくために、県民の意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とするための「県民アンケート調査」を毎年実施しています。

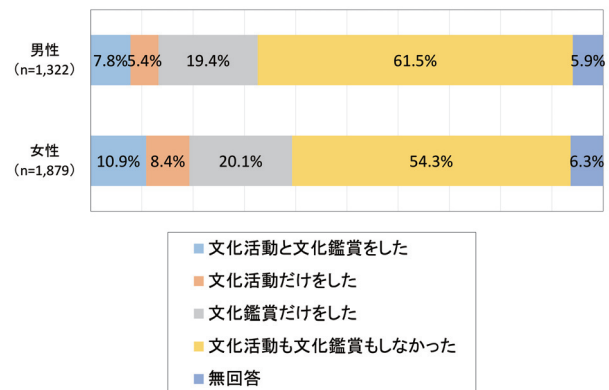
今回は、令和4年度「県民アンケート調査」のなかから「文化活動【智恵の「都」をつくる】」の項目に焦点を当て、調査結果とポイントについて紹介します。

1. 調査概要

調査目的	身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「安全・安心の確保」や「景観・環境の保全」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とするため。
調査項目	県民の生活全般に関する項目や「安全・安心の確保」、「景観・環境の保全」等に関する意識やニーズ等、全11項目で構成。
調査実施期間	令和4年6月4日～6月23日
調査対象	奈良県内在住の満20歳以上の男女・個人7,000人
有効回答数(回答率)	3,331件(47.6%)
調査方法	郵送配布・郵送回収・オンライン回答フォームによる回答受付

性別未回答の回答結果があるため、男女の合計数は県全体の数値と一致しない（以下同様）。

図表2：この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無
(令和4年度、男女別)

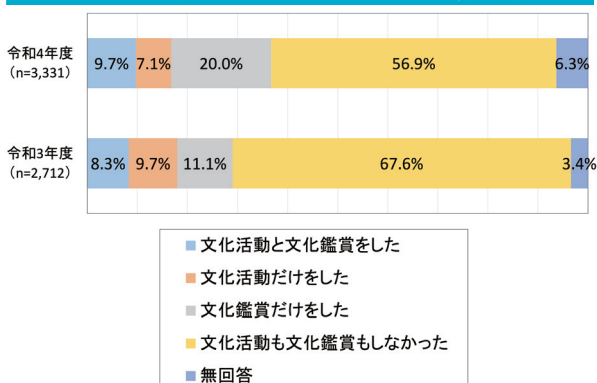


2. 調査結果のポイント（一部抜粋）

（1）この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無^{※1} ^{※2}

この1年間に「文化活動または文化鑑賞をした人」（「文化活動と文化鑑賞をした」＋「文化活動だけをした」＋「文化鑑賞だけをした」）の割合は36.7%と令和3年度調査（以下、「前回調査」）に比べて7.7ポイント増加しました（図表1）。

図表1：この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無（年度別）



また、男女別に見ると、「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合は、女性が39.3%と男性の32.6%を6.7ポイント上回りました（図表2）。

※1. 文化活動とは、習い事や趣味の他、楽器の演奏やダンスなど自ら主体的に行う活動全般

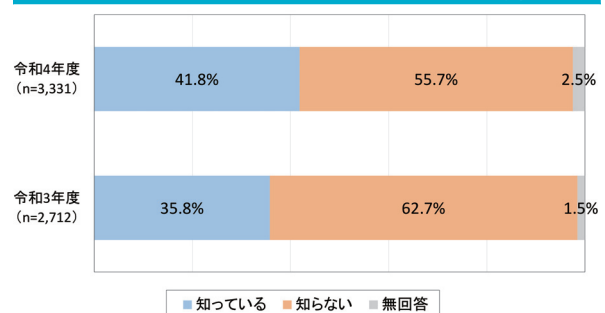
※2. 文化鑑賞とは、公演・展覧会など鑑賞全般（家庭内での音楽鑑賞等を除く）

（2）「ムジークフェストなら」の認知度

「ムジークフェストなら」は、2012年から毎年開催（2020年はコロナ禍の影響で中止）されている音楽祭です。奈良県内の社寺を中心に、県内各地でコンサートが開催されています。

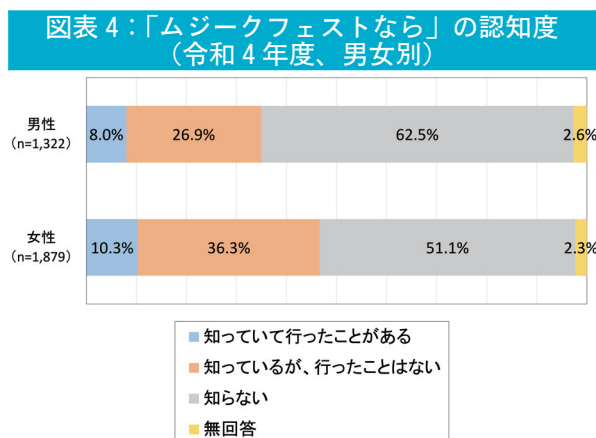
同イベントについて、「知っている」（「知って

図表3：「ムジークフェストなら」の認知度（年度別）



いて行ったことがある」+「知っているが、行ったことはない」) 人の割合は 41.8%と前回調査に比べて 6.0 ポイント増加しました(図表 3)。

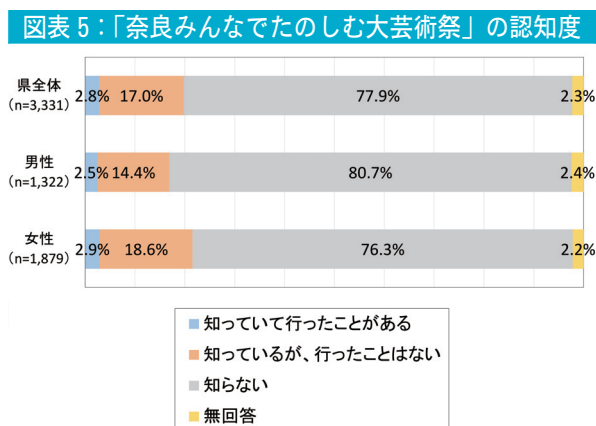
また、男女別に見ても、「知っている」人の割合は、女性が 46.6%と男性の 34.9%を 11.7 ポイント上回る結果となりました(図表 4)。



(3)「奈良県みんなでたのしむ大芸術祭」の認知度【令和 4 年度から新設された設問】

「奈良県みんなでたのしむ大芸術祭」は、2021 年から「奈良県大芸術祭」「奈良県障害者大芸術祭」を一本化して開催されている芸術祭であり、芸術文化活動を行う個人・団体と一緒に作りあげるのが特徴の『参加型』のアートフェスティバルです。

同イベントについては、「知っている」(「知っている、行ったことがある」+「知っているが、行ったことはない」) 人の割合は 19.8%となっています。



男女別に見れば、これまでの指標と同様の傾向が見られ、「知っている」人の割合は、女性が 21.6%と男性の 16.9%を 4.7 ポイント上回る結果となりました(図表 5)。

今回は、県民による文化活動・文化鑑賞の実施度やイベントの認知度を紹介しました。文化活動・文化鑑賞を実施した人の割合は、前回調査に比べて増加したものの、4 割に満たない水準となっています。なお、この調査からは、男性より女性の方が文化活動・文化鑑賞を積極的に行う傾向がうかがえました。

奈良県には、寺社仏閣を筆頭に魅力的な有形文化財が多く存在し、本記事で紹介したような文化芸術活動も盛んに行われています。また、現代では、美術・音楽・舞踊等といった文化に加え、マンガやアニメーション、ゲームといったメディア芸術などという生活に彩りを加える新たな文化も根付いてきています。直近では、AI 等のデジタル技術を芸術活動に活用するデジタル芸術というべき試みも生まれつつあるなど、わが国の文化芸術は幅広く、奥深く、さらに上質なものとってきています。

「文化の日」はわが国において国民の祝日となっています。文化の価値を十分に認識し、維持・承継・発展させていくためにも、ときには一歩立ち止って自分を見つめ返すとともに、文化活動に積極的に参加したり、優れた芸術文化や歴史的な文化の所産に触れたりすることで、豊かな人間性や多様な個性を育む一助としてみてはいかがでしょうか。

(藤岡奨太)